

アグロ・イノベーション2012開催

去る11月14日～16日、実用化された技術を事業化・商業化する展示会「アグロ・イノベーション」が、東京ビッグサイト東6ホールにおいて開催された。今年の特色は大学や研究機関が開発した最新技術を実用化する「アグリビジネス創出フェア」との共催。最新技術を現場につないでいくことが狙いだ。

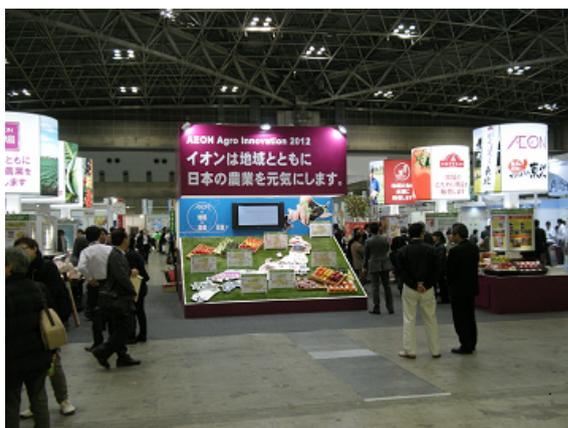
主催者より結果速報として発表された3日間の来場登録者数は、7,745人。昨年より若干の減少をみたものの、会場には生産者及び流通業、メーカーが情報を求めて来場、商談や情報交換が積極的に行われた。

学生や地方自治体の首長・担当者も訪問

今年度は「アグリビジネス創出フェア」との共催になった関係上、会場は多くの学生や研究者の姿を見かけた。またセミナーや企業出展ブースには地方自治体の首長や担当者が訪問、地域の活性化をねらい企業の誘致交渉を行う姿も見られ、来場者は様々な形で展示会を活用していた。

都内大学の農学部に在籍する男性は所属するゼミのカリキュラムの一環として、指導教官の勧めで来場。「ゼミ単位取得のために来場したが、農業に付随した産業がこんなに多く、また活発に活動しているとは思わなかった」特に関心を持ったのは電気メーカーの農地管理システム。実際に広まるとすごいことになると思う。来て良かった」と参加出来たことを喜ぶ。

なかには就職活動に向けた企業研究に役立てようと、各ブースを回る学生の姿も。真新しい紺のスーツ姿が目立つ。そのうちの一人に話を聞くと農学系の学生で企業訪問とのこと。「出展している企業は農業分野でも最先端の取り組みをPRしていることから、多くの情報が取れる」と企業研究に余念がない。（次ページ上段へ続く）



細菌を共生させて殺虫剤に抵抗する害虫

～害虫が殺虫剤抵抗性を獲得する新規メカニズムの発見

寒さが厳しくなって来た。この時期になると越冬しようとするカメムシが家屋の隙間から屋内に入り込み、駆除に苦労することがある。今号は大豆の難防除害虫であるホソヘリカメムシの殺虫剤抵抗性についての新しい知見をご紹介したい。

時々「この農薬は効かなくなった。害虫に抵抗性がついたのではないか。」と現場で耳にすることがある。これまで、害虫が抵抗性を獲得するメカニズムは、害虫自身の遺伝子に生じた突然変異によるものと考えられてきた。殺虫剤の駆除から生き残る突然変異を持った個体が、集団内の個体数を増やしていくことによって抵抗性が顕在化するというわけだ。

しかし、産業技術総合研究所は農業環境技術研究所及び沖縄県農業研究センターと共同し、今年4月、このホソヘリカメムシが環境土壌中の殺虫剤を分解する細菌を取りこんで消化器に共生させることにより殺虫剤耐性を獲得してい



ホソヘリカメムシ

（次ページ中段段へ続く）

多くのセミナーも併催

「アグロ・イノベーション」においては、各ブースでの展示や商談と並行して、会場内セミナーが複数実施された。多くの研究機関による発表や出展社のプレゼンテーションが実施されたが、玉川大学および千葉大学を始めとする植物工場に関する研究発表が多く見受けられるのが近年の特徴だ。他にもイオン・アグリ創造や東京デリカフーズ、モスフードサービスおよびサブウェイなどの小売や外食関連企業によるセミナーは、座席が足りず立ち見が出るほどの聴衆を集め、消費者側の需要動向に対する関心の高さがうかがわれた。最終日には日本農業法人協会 若手会のキックオフセミナーとして、カンボジアでの農場経営に商機を求めるJCグループ(東京都港区)の高 虎雄CEO、業務の進捗の「見える化」を推進することによって労働力の生産性を追求、人件費率の低下に取り組むサラダボウル(山梨県中央市)の田中 進代表取締役らが出席、パネルディスカッション形式で各自の取り組みを紹介、今後の決意表明がなされた。

(前ページ下段より続く)

ることを発見した。つまり、従来の定説である遺伝子の突然変異による抵抗性の獲得以外のメカニズムが発見されたことになる。

多くの昆虫は体内に微生物を共生させており、ホソヘリカメムシも例外ではない。このカメムシには盲のうという袋状の消化器があり、ここにパークホルデリアという細菌が共生している。この細菌は土壤中に普通に存在しており、ホソヘリカメムシが成長過程で口を経由して取り込むことによって共生している。パークホルデリアはこのカメムシの栄養代謝を助ける役割を担っているようだ。

そしてパークホルデリアは一部の有機リン系殺虫剤を分解でき、散布回数が多いほど土壤中で殺虫剤を分解出来るパークホルデリアの数が増えることが今般分かった。このため薬剤防除が多いほど、分解可能な細菌を共生させたホソヘリカメムシが増加し、これらのカメムシは殺虫剤耐性を獲得することになる。

これまで農薬の発展と害虫の農薬耐性はイタチごっこであった。この新しい発見を生かし、害虫に共生する菌のメカニズムに対する研究が更に進められ、他の難駆除害虫の防除に道を開くことを願いたい。

日増しに寒くなってきましたね。今年もノロウィルスが大流行の兆しです。基本的な予防法として、手洗いの励行があります。これからインフルエンザ等も流行してきますので、手洗い・うがいが不可欠ですね。忘年会シーズンにも突入すると宴席で風邪をもらった！という事も多いと思います。自己防衛も必要ですが、咳エチケットなどの周囲への気遣いもお忘れなく。

編集事務局：小田、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>



価格の端数の決め方

小売店の店頭価格を見ると298円、2,980円など端数に「8」が使われているのを良く見るが、それにはこんな理由がある。1,000円程度の商品を980円という風に価格設定を端数にすることで、消費者に割安感を与えることが出来る。最後の2桁がきりよく「~00」になっていると、消費者はその価格設定を定価と感じ、実売はもっと安いだろうと予測する傾向がある。最後の数字を「8」にすることで「9」より安いと感じる。

このような端数の設定方法は、専門的にはマーケティングの価格戦略にある「心理的価格設定」という手法によるものだそう。また、最近ではコンビニなどで94円、197円というように、あまり目にしない端数が価格に使われている場合がある。これは消費者が価格を見たときに「価格設定の時に経費を計算したり、いろいろ協議してやっとはじき出された値段なんだろう。だから安くなっている。」と考える効果を狙っているとか。